



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第39号(2009年1月9日)

#### 「新年を迎えて」

明けましておめでとうございます。本年も当コラムをよろしくお願い致します。

昨年の米国発の金融危機は9月のリーマン・ブラザーズ破綻以降、实体经济の急速な縮小に波及し世界経済全体に大きな影響を与えました。2008年の世界の株価下落で、日本のGDPの7倍に当たる約3,500兆円の富が消失し、負の資産効果がもたらす世界の消費の落ち込みは約250兆円にも及ぶとも言われております。さらに不動産価格の下落も加わり、デフレ・スパイラルのリスクに直面しているといえます。実際に足元で公表されている各種マクロ経済統計は過去に例の無い大幅な悪化傾向を見せています。

しかし、悪い話は短期的には言い尽くされた感があります。日米欧の先進国、加えて中国等の新興国の政府・金融機関はあらゆる手を尽くし、破壊的な経済の縮小に歯止めをかけるべく大規模な施策を打っており、市場の期待感も高まりつつあります。実際に直近の世界各国の株式市場は新たな悪材料に対し過度な反応を示すことが無くなりつつある様に見受けられます。

その中で日本株は約八割の銘柄が純資産価格以下の水準まで売り込まれ極度な悲観論が価格に織り込まれていると考えられます。2009年の日本株は、相対的な割安感や企業の安定感が注目され、世界の変革の中心になると感じています。特に日本企業によるM&Aは、国内外問わず活発化する可能性が高いのではないかと考えています。

今、我々が行なうべきことは割安な企業の中から、世界の市場の中での技術力・ブランド力・組織力の強さを持ち、この混乱の後にさらに強くなっていく企業を丁寧に選び出していくことと考えます。現在の経済危機は「100年に一度の津波」といわれていますが、将来振り返ってみると「100年に一度の投資機会」であったということもあるかもしれません。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。